

「税とは何か」

富山県立南砺福野高等学校一年 伊藤 梓

「なんでこんなに…」 そう思ったのは、社会の税金についての授業のときだった。税に多くの種類があると知ったとき、そう思った。所得税や固定資産税、自動車税に消費税…。表を読み上げるだけでその税の種類の多さがわかる。「なぜこんなに多くの種類が必要なのか。」「なぜ生きるためにお金を払い続けなければいけないのか。」私は、疑問に思っただけで仕方がなかった。

「未来への投資」その言葉を聞いたのは、その後の租税教室を受けているときだった。「どんな意味だろう。」とパンフレットを読み進めると、ずっとわからなかった疑問がすっと解けたように感じた。私達は当たり前のことが誰かにとってはそうでないかもしれない。その誰かのための資金援助のお金として使われていることがそこには書かれていた。そして、その誰かは最初から決められているのではなくこれから誰もがなりうる可能性があると考えた。自分の夢を追いかける人、町おこしに力を入れようと集う人々。そのたくさんの人々の希望に応えようと手助けになると考えたからです。寄金やクラウドファンディングに頼るという選択肢もありますが、税の力を借りることはいくつかのメリットを持っていると考えた。それは、幅広い考えに触れられるところである。例えば、自分たちに身近な市役所に行けば、自分のしたいことを相談できる。自分の考えを話すことで、自分と同じような考えをもつ人々と巡り合ったり、活動に参加できたりすると思う。それは、自分の夢に近づくための第一歩ではないだろうか。このように、自分たちに身近なところや多くの大人に相談・協力できることは寄金やクラウドファンディングなどではできない税の力を借りるメリットだと思う。

また、「私達は当たり前のことが誰かにとってはそうでないかもしれない。」とあったが、私達が暮らす地域では税金でまかなわれているものが多い。小学校や中学校、消防署、警察署などの施設の目に見えるものだけでも私達の暮らしにかかせないものだと思う。また、これらも私達には当たりだという認識が多いと私は思う。だから、「なんで」ばかり言うのではなく感謝すべきものであると思う。